

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891400032
法人名	(株)たかちほ
事業所名	グループホーム明浜館
所在地	愛媛県西予市明浜町高山甲688番地
自己評価作成日	平成22年6月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年7月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生き生きと暮らせるように支援する。よく食べ、よく出し、1日1回笑う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者を中心に職員全員で地域との交流に力を入れている。地域の方も利用者を快く迎え入れてくれ、気軽に声をかけてくれる。協力病院の医師が地域医療に熱心で、緊急時でも対応をしてくれたり、病院受診は必ず職員が付き添い医療機関に情報提供をするなど、適切に医療が受けられるよう支援している。定期的に避難訓練も実施しており、利用者の代わりに職員がモデルになり避難開始から終了までの時間を計って、迅速に行えるような避難訓練も行っている。消防署が遠い等の地域特性も理解し、地元消防団との協議も密にしており、火災等の災害に対する意識は非常に高い事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム明浜館

(ユニット名) 北ウイング

記入者(管理者)

氏名 土居 京子

評価完了日 22 年 6 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 人生の最終ステージを安心のあるものにする為、その人らしく生き生きと暮らせるようになる為、私たちは力をつくしたい。をモットーとしている。</p> <p>(外部評価) 理念を実践するために年度当初に職員個人の目標を立て、評価や反省をする機会を設けている。職員の親を利用させたいような介護やサービス提供ができるよう、職員が協働し取り組んでいることが見て取れる。</p>	<p>理念をより具体的に実践していくために行動目標を立案したり、職員個人が立てた目標をいつでも振り返ることができるような工夫を職員全員で検討し、さらに質の高いサービスが提供できるよう期待したい。</p>
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 3年目を迎え、地域の行事、催し物がわかってきた。又推進委員の方々に、情報をいただき、力添えをしてもらって参加している。</p> <p>(外部評価) 管理者を中心に職員全員で地域との交流に力を注いできた結果が実を結び始め、地域の祭や花火大会でも運営推進会議の参加者が席を用意してくれたり、地域の方が散歩中などに気軽に声をかけてくれたりする。認知症についての講習会の企画も打診している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 老人クラブの方や、小学校の校長先生、民生委員さんにきていただくことで、グループホームの内容を詳しく説明することができた。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回、たくさんの方々に参加していただき、ホーム内のことを報告し、意見をきいている。	
			(外部評価) 運営推進会議の重要性をよく理解しており、井戸端会議のように気軽に参加してもらうような働きかけをし、様々な立場の人の参加を得ている。職員も交代で参加し、話し合われた結果は職員会で報告している。活発な意見交換がされていることが記録から見て取れる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 推進会議に参加してもらい、細かく報告し、県や市の情報も伺っている。	
			(外部評価) 行政担当者は運営推進会議に積極的に参加し、相談などにも気軽に応じてくれる。生活保護の利用者についても、担当職員が定期的に訪問してくれるなど協力関係が構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間のみ施錠している。 夜間の体動活発な方は畳の上に布団を敷き、転倒のリスクを回避した上で、自由に出入りしてもらう。	
			(外部評価) 玄関からは自由に出入りができ、利用者は自由に外に出ることができる。利用者同士のトラブルで行動制限をしなくては危険な場合など、事例を挙げて近々職場内研修をしようと考えている。また、外部の研修も積極的に受講し身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 注意を払っている。身体に関することはもちろん会話の中でも乱暴にならないよう気をつける。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 活用していない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 理解をしてもらっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 推進会議や家族交流会で、ご家族の意見を伺っている。  (外部評価) 家族との交流会で意見をもらい、運営に活かしている。また、家族からの苦情等には迅速に対応し、納得のいくまで説明をしている。職員も家族から意見をもらった時には、どんなことでも申し送りノートに記載し、全員で情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に一度の職員会に事務長も同席し対応する。 事務長や管理者から代表者に聞いてもらっているが、運営に関する提案は出ていない。  (外部評価) 管理者は、月に1回の職員会で意見が出しやすい雰囲気を作るよう心がけており、職員からも意見が出されている。また、職員会では言えないことも管理者に直接伝えることもできる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) ネットワークづくりの取組みは行っていないが研修の場での交流を図れるように心がけている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時の本人からの意見を聞くことは難しいが、1W、一ヶ月と関わりを持つ中で、要望を聞くようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 出来るだけ家族の方とも話をし、要望などもうかがったりしており、関係づくりは出来ていると思う。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 定期的なサービス内容も職員一同話し合い家族の方にも目を通してもらって要望があればそれを含めたサービス内容になっていると思う。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の出来る事は手伝ってもらったり、遊びの中に取り入れたりしているが、なかには、出来ていない利用者さんもいる。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 来所時は、ゆっくり過ごす時間と場所を提供する。なるべく一緒に食事をしてもらうようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みのお店を利用したり、明浜地区に関係ある人は行事など利用。町外から来られている人は、なかなか関係を持ててはいるが祭り、花火などは全利用者で参加している。  (外部評価) 地域の祭りや行事には積極的に参加している。地域の理美容店などは昔からの馴染みの店であったり、病院受診などで昔からの知人とつきあいができるよう配慮している。他地域出身の利用者の地元との交流は、距離的に難しい事もあるが出来る限りの支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一緒に会話をしたり、運動・遊びと行ってはいますが、時折険悪な場面もあり、職員が間に入っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 努めている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) できているし、ほとんど本人の希望は聞いている。	
			(外部評価) 日常の会話などで聞き取ったり気づいたりした情報は、職員会やユニットごとの話し合いで伝えたり、全職員が共有できるように申し送りノートに記載し、さらに特別なことは青で書くなどの工夫もなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 毎月一度の職員会議で職員全員で話し合ったり、家族の方にいろいろ話を聞いたりしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 申し送りの時や、職員の申し送りノートで心身の状態の変化や過ごし方の把握をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価) 一人一人の状態に合った介護計画を立てる事が出来て いる。	
			(外部評価) 利用者の担当を決めており、原案は担当者が立案す る。それを元に職員会で検討し現状に即した介護計画 を作成している。基本的には3か月に1回見直しをす るが、状況の変化に応じて随時検討することもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) その時の体の状態だけでなく精神面の状態についても 細かく記録している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々生まれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) 一人一人どの様にすればよりよく生活を送ることが出 来るのか考えながら介助をさせて頂いている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) 病院や理美容室だけでなく地域の方々との関わりを大 事に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 本人や家族納得の上病院受診へ行ったりしている。</p> <p>(外部評価) 利用者が事業所から徒歩で行ける程度の距離の病院が 協力病院になっている。協力病院の医師が地域医療に 熱心で、緊急時でも対応してくれる。また、利用以 前から受診している医療機関でも継続して受診でき るようにしている。受診時には職員が必ず付き添うよ うにしている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 医療機関にはすぐに連絡をする様にしている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) だいたい出来ている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 早い段階から話し合ったこともあるが、状態によ って、家族の気持ちも変わるので、こまめな情報 の交換、連携をとるようにしている。</p> <p>(外部評価) 家族や協力病院の医師とよく話し合いをし、看 取りをしたケースがある。看取りの指針はない が、管理者を中心に、家族や協力病院の医師 などの関係者と話し合いを密に行い対応を している。</p>	<p>医師や管理者が緊急時には迅速に対応できる体制を 整えているが、夜勤の職員は少なからず不安が ある。看取りについての研修を継続的に行う など、少しでも不安を解消する取り組みがな されることを期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年に1回デイサービスの職員と一緒に、消防署職員に来てもらい救急法を実施している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に1回避難訓練をしている。 今年は、夜勤帯で2人しか職員がいないという設定で実施した。  (外部評価) 利用者の代わりに職員等のモデルで避難開始から終了までの時間を計って、迅速に行えるような避難訓練も行った。消防署が遠い等の地域特性も理解し地元消防団との協議も密にしており、火災等の災害に対する意識は非常に高い。また、スプリンクラーの設置も完了している。	地域に住んでいる職員の協力を迅速に得るために、連絡網の整備及び訓練は行っているが、予告をしてからの訓練のため今後は抜き打ちで行うなど、より実践的に訓練を重ね災害対策をさらに強化してほしい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ある程度はできていると思うが、まだ不十分なところもあるので、職員一同プライバシー確保について、確認し合っています。  (外部評価) 風呂等の介助は同性介護を基本とし、必ず状況説明を行い利用者の同意を得てから行うようにしている。また、職員は食事の後片付けなども利用者の意思を尊重し、丁寧に声かけしお願いするよう気をつけている。	プライバシーの確保については一応の配慮はされているが、利用者が遠慮をしていることも考えられるので、全職員で利用者の立場に立って再度点検、見直しすることを希望したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) おおむねできていると思う。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) お店へ行けない方には出張でパーマをかけてもらい、本人や家族からの要望をきく。 (毛染め、好みのカット、出かける時の服選び)	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) できる人には、声かけし、一緒に準備、片付けなどしている。 誕生日には、その人の好きなものを聞いて、作ってお祝いしている。  (外部評価) 利用者と職員が同じメニューで一緒に食事をとりながら、支援の必要な利用者の横に職員がさりげなく座り介助をしたり、利用者同士の会話を上手に促し楽しく食事ができるように工夫をしている。片付けも利用者ができる事は職員と共にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人一人にあった食事形態を提供する。地元の物、季節を考えたメニューを心がける。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 全員日中はトイレでの排泄を支援し、夜間のみ2人の方がパット交換の介助を行っている。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンや表情、行動などで把握して、日中は全員トイレ介助を行っている。新規利用者は排泄チェック表を用いてパターンを把握するよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘症の方には、ヨーグルトを食べてもらったり、水分を多くとってもらったり、散歩に行ったりしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 希望のある方には個々に応じた入浴の支援をしているが、全員に希望を聞いているわけではない。ほとんどの方が毎日入られている。	
			(外部評価) 入浴時間は特に定めておらず利用者が、ほぼ毎日全員入浴できるようにしている。介助を必要とする利用者もいるが、職員2人で入浴を介助するなど利用者の状態の合わせ入浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 自由に横になられたり、昼寝をされている。夜間眠れない時は、温かい飲み物やおやつを提供している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人一人、薬情表をみて、理解し、飲み忘れや、誤薬を防ぐよう、日々、取り組んでいる。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯たたみや、花の水やりや、野菜切り、新聞のゴミ箱作りなど、その人その人ができる、仕事をしてもらって、役割作りの支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) できている。 理美容院への支援、買い物、病院介助、散歩の支援を行っている。地域への行事には推進委員さんや地域の方の協力を得ている。	
			(外部評価) 散歩など日常的にしている利用者を、職員は安全に配慮しながら見守っている。1人で外出できない利用者については職員と一緒に庭に出るなどの支援をしている。また、定期受診をした帰りに買い物に行くなど本人の希望を聞きながら柔軟に対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 希望される方は理解してもらい、自由に使ってもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 返信はできないが届いた薬書や手紙と一緒に読んでいる。電話をかけたい方は、自由に使ってもらっている。(介助にて)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 毎月季節の花などを取り入れた手作りカレンダーを飾ったり、写真を示したりしている。 食堂のテーブル、玄関などに花を置いている。	
			(外部評価) 事業所内の床や壁には木材が多用されており落ち着いた雰囲気である。また、高台に位置しているため大きな窓からは海や山、地域の町並みも一望でき、適度な日差しが差し込み気持ちが良い。室温や音にも配慮され快適に過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 特にはしていないが、気の合わない利用者同士に対しては居間などで一緒にならないよう、声かけして移動してもらったりの対応をしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 仏壇などを持ってきてくださるようお願いしているが家族があまり持ってこられない。テレビ、ソファ、布団などを持ち込まれている人がおられる。	
			(外部評価) 居室の床や壁にも木材が多く使用され、ベッドには畳が敷かれており温かみを感じることができる。使い慣れたものを自由に持ち込むことが可能であり、家族の写真やお気に入りの置物なども利用者の好みに合わせて飾られ、居心地のよい空間が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人一人のできることを見守りながら支援しているが、手を出し過ぎる場面もある。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891400032
法人名	(株)たかちほ
事業所名	グループホーム明浜館
所在地	愛媛県西予市明浜町高山甲688番地
自己評価作成日	平成22年6月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年7月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしく生き生きと暮らしてもらう。(よく食べ、よく出し、よく笑う)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者を中心に職員全員で地域との交流に力を入れている。地域の方も利用者を快く迎え入れてくれ、気軽に声をかけてくれる。協力病院の医師が地域医療に熱心で、緊急時でも対応してくれたり、病院受診は必ず職員が付き添い医療機関に情報提供をするなど、適切に医療が受けられるよう支援している。定期的に避難訓練も実施しており、利用者の代わりに職員がモデルになり避難開始から終了までの時間を計って、迅速に行えるような避難訓練も行っている。消防署が遠い等の地域特性も理解し、地元消防団との協議も密にしており、火災等の災害に対する意識は非常に高い事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム明浜館

(ユニット名) 南ウイング

記入者(管理者)

氏名 笹岡 エリコ

評価完了日 22年 6月 10日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念をいつも頭に置き、人生の最終ステージに共に寄り添い住み慣れた環境により近くなるように、管理者や職員、家族を含めよりよいケアの検討、また情報を共有する機会を多く持つ様になっています。</p> <p>(外部評価) 理念を実践するために年度当初に職員個人の目標を立て、評価や反省をする機会を設けている。職員の親を利用させたいような介護やサービス提供ができるよう、職員が協働し取り組んでいることが見て取れる。</p>	<p>理念をより具体的に実践していくために行動目標を立案したり、職員個人が立てた目標をいつでも振り返ることができるような工夫を職員全員で検討し、さらに質の高いサービスが提供できるよう期待したい。</p>
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域でのイベントには積極的に参加し、小学校・保育園・婦人会の訪問もあり、地域の中で孤立する事のない様に心がけています。</p> <p>(外部評価) 管理者を中心に職員全員で地域との交流に力を注いできた結果が実を結び始め、地域の祭や花火大会でも運営推進会議の参加者が席を用意してくれたり、地域の方が散歩中などに気軽に声をかけてくれたりする。認知症についての講習会の企画も打診している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) まだまだ地域全体には理解できていない所も見受けられるが、小学校・保育園や婦人会の訪問等の機会を活かし、少しずつ理解を得てきていると思います。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 推進委員に、会議の内容により各種団体の参加をお願いし意見を頂いたり、共に日常を経験して頂き外から見た意見をお聞きしたりしたいです。	
			(外部評価) 運営推進会議の重要性をよく理解しており、井戸端会議のように気軽に参加してもらうような働きかけをし、様々な立場の人の参加を得ている。職員も交代で参加し、話し合われた結果は職員会で報告している。活発な意見交換がされていることが記録から見て取れる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 推進委員会には、毎回市担当者の出席を頂き、情報を発信して頂いたり意見をお聞きしたり、また電話等でも連絡を取るなどしています。	
			(外部評価) 行政担当者は運営推進会議に積極的に参加し、相談などにも気軽に応じてくれる。生活保護の利用者についても、担当職員が定期的に訪問してくれるなど協力関係が構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員間で身体拘束を話し合いながら、身体拘束をしないケアを心がけてます。また、身体拘束について研修もしたいと考えています。	
			(外部評価) 玄関からは自由に入出りができ、利用者は自由に外に出ることができる。利用者同士のトラブルで行動制限をしなくては危険な場合など、事例を挙げて近々職場内研修をしようと考えている。また、外部の研修も積極的に受講し身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待の意味を理解し、常に頭の中に入れ見守りしながら行動しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在権利擁護等を利用されている人はいないが、今後利用される人も見込まれることから近い機会に研修も必要と思っています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、管理者が十分に説明しているが、家族等の不安や疑問点をお聞きした場合は、説明し理解・納得して頂いています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族からの意見等お聞きした場合は、管理者等につなぎ、推進会議でも事例を検討する様にしています。  (外部評価) 家族との交流会で意見をもらい、運営に活かしている。また、家族からの苦情等には迅速に対応し、納得のいくまで説明をしている。職員も家族から意見をもらった時には、どんなことでも申し送りノートに記載し、全員で情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月一回の職員会議において管理者と職員で意見交換する機会を設け、代表者にも報告しています。  (外部評価) 管理者は、月に1回の職員会で意見が出しやすい雰囲気を作るよう心がけており、職員からも意見が出されている。また、職員会では言えないことも管理者に直接伝えることもできる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員会等での意見は検討し、管理者へ連絡・報告し反映しています。また、個別面談も行い各自向上心を持てる様にしています。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修も全員行うよう配慮し、職員にあった段階を選択し外部評価を受ける機会を作ってもらっています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) あまり交流はないが、研修の時に同業者と交流する事が出来ます。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 家族からの事前面談の際お聞きする様にし、入居されてからも本人様家族と連絡を取り合うなどして関係を作っています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族との信頼関係が築けるようお話しは充分時間をかけてお聞きし、近況を報告するなど家族の不安や要望等をお聞きする様にしています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者の家族の思いを十分に話し合い、また支援を提案しながら、話し合いの元で支援をするようにしています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は利用者を共に生活しているという思いを頭に置き、家族の様に見守っていきこうと話し合っています。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 何でも話しやすい関係を築いている事により共に支えている事ができていると思っています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域の行事などに積極的に参加し交流を図っています。  (外部評価) 地域の祭りや行事には積極的に参加している。地域の理美容店などは昔からの馴染みの店であったり、病院受診などで昔からの知人とつきあいができるよう配慮している。他地域出身の利用者の地元との交流は、距離的に難しい事もあるができる限りの支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者との関りを少しでも多く持ち、利用者同志のトラブルも職員が間に入り、いい関係が出来る様に努めています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 伺うなどアフターフォローに努めています。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で会話や表情等、その人に合った状態を維持できる様、穏やかに暮らしていける様、努めています。  (外部評価) 日常の会話などで聞き取ったり気づいたりした情報は、職員会やユニットごとの話し合いで伝えたり、全職員が共有できるように申し送りノートに記載し、さらに特別なことは青で書くなどの工夫もなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査表や、家族との会話、本人と話したりした中で今までの暮らし方を把握する様にしています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活リズムを壊さず共同生活に馴染んでもらいゆつくりと個人の長所を伸ばしてもらうように努めています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の希望や職員間の話し合いにおいてケアプランを立案し、その人らしく安心して暮らせる様努めています。	
			(外部評価) 利用者の担当を決めており、原案は担当者が立案する。それを元に職員会で検討し現状に即した介護計画を作成している。基本的には3か月に1回見直しをするが、状況の変化に応じて随時検討することもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別のファイルを作り身体状況・日々の暮らしぶりや言葉等を記録しています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 時折、デイサービスへの訪問をしたり、急な外出を希望されたり、興奮があったりした場合には遠くから見守ったり気分転換が出来る様努めています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 推進会議において、各種の参加をお願いし、なじみになって頂いたりしながら、地域の中での見守りをして頂ける様に努めています。また、行事等でお会いすれば声掛けなどお願いしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医との連携を図りながら利用前の医療機 関や専門医へは家族の協力を得て適切に受診されてい ます。	
			(外部評価) 利用者が事業所から徒歩で行ける程度の距離の医院が 協力病院になっている。協力病院の医師が地域医療に 熱心で、緊急時でも対応してくれる。また、利用以 前から受診している医療機関でも継続して受診できる ようにしている。受診時には職員が必ず付き添うよう にしている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 普段の健康管理や観察の視点などかかりつけ医に相 談しながら一人ひとりの医療支援を行っています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) かかりつけ医師の指示に従い、入院、治療等を行い 適切な相談や受診が出来ていると思います。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族の意志に基づいて、終末期を迎えられるよう家 族、主治医、職員と連携を図り早めの対応を心がけ ています。	
			(外部評価) 家族や協力病院の医師とよく話し合いをし、看取りを したケースがある。看取りの指針はないが、管理者を 中心に、家族や協力病院の医師などの関係者と話し合 いを密に行い対応をしている。	医師や管理者が緊急時には迅速に対応できる体制を整 えているが、夜勤の職員は少なからずも不安がある。 看取りについての研修を継続的に行うなど、少しでも 不安を解消する取り組みがなされることを期待した い。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に、実施（年一回）消防署の職員により救命救急の講習は受けています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災時に、確実な避難誘導ができるように職員は実践的な訓練を行うなど取り組んでいます。本年度は夜勤帯での訓練を実施しました。  (外部評価) 利用者の代わりに職員等のモデルで避難開始から終了までの時間を計って、迅速に行えるような避難訓練も行った。消防署が遠い等の地域特性も理解し地元消防団との協議も密にしており、火災等の災害に対する意識は非常に高い。また、スプリンクラーの設置も完了している。	地域に住んでいる職員の協力を迅速に得るために、連絡網の整備及び訓練は行っているが、予告をしてからの訓練のため今後は抜き打ちで行うなど、より実践的に訓練を重ね災害対策をさらに強化してほしい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員会での話し合いやユニットでの職員の話し合いや研修報告等まで意識向上に努めている。  (外部評価) 風呂等の介助は同性介護を基本とし、必ず状況説明を行い利用者の同意を得てから行うようにしている。また、職員は食事の後片付けなども利用者の意思を尊重し、丁寧に声かけしお願いするよう気をつけている。	プライバシーの確保については一応の配慮はされているが、利用者が遠慮をしていることも考えられるので、全職員で利用者の立場に立って再度点検、見直しすることを希望したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者に合わせて声掛けし、意思表示が困難な方には、表情・しぐさを注意深くキャッチしながら支援していける様努めています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 基本的な一日の生活の流れはあるものの、利用者の希望や思いに応じて日常を送れる様にしています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 朝の整容等や更衣選び等で、その人らしさを心がけています。美容院等も希望に応じていきたい。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 調理が出来る利用者はいないが、片付けや洗濯物たたみ等出来る事をして頂いています。	
			(外部評価) 利用者と職員が同じメニューで一緒に食事をとりながら、支援の必要な利用者の横に職員がさりげなく座り介助をしたり、利用者同士の会話を上手に促し楽しく食事ができるように工夫をしている。片付けも利用者が出来る事は職員と共に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 献立をスタッフが考え、それを栄養士に見直してもらい、栄養や季節感を出しながら食事出来る様にしています。水分補給等も把握しながら行っています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎日食事後（朝・昼・夕）口腔ケアを心がけています。自分で出来ない利用者は、スタッフが介助などしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、気持ちの良い排泄が行えるよう努めている。日中は全員トイレで排泄しています。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンや表情、行動などで把握して、日中は全員トイレ介助を行っている。新規利用者は排泄チェック表を用いてパターンを把握するよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) こまめな水分補給に気を配り、棟内の歩行運動などを働きかけ、取り組んでいます。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) その日の希望を聞き、入って頂いています。	
			(外部評価) 入浴時間は特に定めておらず利用者が、ほぼ毎日全員入浴できるようにしている。介助を必要とする利用者もいるが、職員2人で入浴を介助するなど利用者の状態の合わせ入浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 昼と夜の区別をつけ、生活リズムを整えています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 随時、処方箋を確認出来る様にして間違いのない様に服薬介助・見守りをしています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その人に合った食器拭き・お膳拭き・洗濯物たたみ・牛乳パック切り等してもらっています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩・ドライブ・近くへのお花見・地域のお祭り見学等支援しています。また、花火大会や夏祭りにも参加しています。	
			(外部評価) 散歩など日常的にしている利用者を、職員は安全に配慮しながら見守っている。1人で外出できない利用者については職員と一緒に庭に出るなどの支援をしている。また、定期受診をした帰りに買い物に行くなど本人の希望を聞きながら柔軟に対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で管理されている方もありますが、お預かりしているお金は、本人の希望や家族の意向にそい支援しています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望により、電話をかけられたり、家族からの電話を取りつないだりしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 眺望の良い場所にあり、窓からは海・山が見え潮風をかんじながら、共有空間である居間は明るく、台所と一体化していて、食事や団らん出来るようにしています。	
			(外部評価) 事業所内の床や壁には木材が多用されており落ち着いた雰囲気である。また、高台に位置しているため大きな窓からは海や山、地域の町並みも一望でき、適度な日差しが差し込み気持ちが良い。室温や音にも配慮され快適に過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 自室にて過ごされたり、居間にてお話しされたり思い思いに過ごしてもらっています。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家から持って来られた道具・写真などを飾られたりしています。家族にもなじみの物を持って来て頂く様お願いする事もあります。	
			(外部評価) 居室の床や壁にも木材が多く使用され、ベッドには畳が敷かれており温かみを感じることができる。使い慣れたものを自由に持ち込むことが可能であり、家族の写真やお気に入りの置物なども利用者の好みに合わせて飾られ、居心地のよい空間が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下には手すりを設け、廊下幅も広く移動などスムーズに出来るようになっています。	